

## 第3期ロジスティクス環境会議 第5回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2010年2月22日（月） 15:00～16:50

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：18名

IV. 内 容：

- 1) 研究会、委員会の活動内容について
  - (1) グリーン物流研究会
  - (2) 包装の適正化推進委員会
  - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
  - (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査
- 2) 情報提供活動について
- 3) 第3期活動の総括について
- 4) 第3回本会議について
- 5) 2010年度以降の活動について

V. 開 会

事務局の徳田専務理事より開会が宣された後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

1) 2009年度参加メンバー企業について

事務局より、資料1-1に基づき、2008年度末から現在までの参加メンバー企業数の推移等について報告がなされた。

2) 環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」の発行について

事務局より、資料2に基づき、環境教育冊子「グリーン物流ってなんだろう？」の発行、及びこれまでの配布実績と今後の配布予定について報告がなされた。主な意見は以下のとおりである。

### 【主な意見】

委員長：たいへんよい内容のものを作成いただいたと考える。メンバー等からの感想等があれば、ぜひフィードバックいただきたい。

VII. 議 事

1) 研究会、委員会の活動内容について

(1) グリーン物流研究会

事務局より、資料3-1に基づき、グリーン物流研究会の2009年度活動内容、及び今後の課題（案）について説明が行われた。続いて、同研究会の幹事である下村委員より、参考資料2-1に基づき、2009年度の開催実績、並びに参考資料2-2に基づき、メンバーを対象に実施した「2009年度活動アンケート」の結果についての報告がなされた後、環境会議メンバー企業以外へのオープンな形での情報発信によるグリーン物流への普及が今後の課題の1つである旨の説明がなされ、了承された。

(2) 包装の適正化推進委員会

事務局より、資料3-1に基づき、包装の適正化推進委員会の2009年度活動内容、及び今後の課題（案）について説明が行われた。続いて、同委員会の委員長である増井副委員長より、参考

資料3に基づき、活動内容についての補足説明がなされた後、CO<sub>2</sub>排出量算定のための原単位が整備されていないことが課題であり、それらの整備等が必要である旨の説明がなされた。続いて、同委員会の副委員長である麦田委員より、①包装材のフロー図は、各社における包装材の投入や排出を整理するのに有用だと考える、②フロー図を元に各委員から情報提供いただいた項目を中心として、適正化取り組み項目を整理した旨の説明がなされ、以下の意見交換の後、了承された。

#### 【主な意見】

委員長：原単位の整備に関して、環境会議から行政に対する要望等は出していないのか教えていただきたい。

副委員長：これまで原単位の整備に関する要望は出していない。

#### (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会

事務局より、資料3-1に基づき、グリーン物流推進のための取引条件検討委員会の2009年度活動内容、及び今後の課題（案）について説明がなされた。続いて、同委員会の委員長である山本委員より、参考資料4に基づいて、補足説明がなされた後、同委員会の委員である栗田委員より、今後の課題としては、本手引きを活用いただき、取り組みが可能だったかどうか、できなかった場合はどこに課題があったのかといったことについての評価・改善が必要だと考える旨の説明がなされ、以下の意見交換の後、了承された。

#### 【主な意見】

委員長：待ち時間の共通指標化の意味を教えてください。

委員：業界によって待ち時間の解釈や捉え方が異なっており、今回、委員に意見を求めて、一応の考え方を整理したので、これらを普及させることを考えている。

事務局：待ち時間の長時間化によって、配車効率が悪化し、結果としてCO<sub>2</sub>排出増につながっていると考えている。したがって、マクロデータ等から作成された「待ち時間を1分削減すると、配車効率がこの程度向上し、CO<sub>2</sub>排出削減にこの程度寄与する」といったような原単位があると、物流事業者のみならず、発荷主や着荷主における共通指標になるとともに、それらの指標を基に、待ち時間を減らす取り組みが進むと考えている。

委員：荷降ろし時間や付帯作業時間を待ち時間に含めてしまうことについて、疑問が残る。

委員：ご指摘いただいた意見も委員からあったが、委員会の議論としてこのような定義にした。

事務局：待ち時間の構成要素を示すとともに、発荷主が認知しない付帯作業をドライバーがサービスとして実施しているケースも少なくないことから、契約内容の棚卸しをしていただくことをねらいとして、このような整理を行っている。

委員：ドライバー都合で早く到着した場合、待ち時間をどのように考えればよいか教えていただきたい。

事務局：到着時刻から算出するのではなく、あくまでも指定された時刻から算出することとなる。

委員：一般的に、待ち時間によって、トラックの回転が悪くなり、結果としてコスト増につながっている部分があると考えます。

#### (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査

事務局より、資料3-2に基づき、グリーンロジスティクスチェックリスト調査に係る活動について説明が行われた後、グリーンロジスティクスチェックリスト調査WGの幹事である菅田委員より、参考資料5に基づき、補足説明が行われ、以下の意見交換の後、了承された。

#### 【主な意見】

副委員長：調査関係の活動の中に、省エネ法実態調査についての記載がないが、第3回本会議での報告は行わないのか教えていただきたい。

事務局：第4回企画運営委員会において、調査の報告を終えているので本資料には記載していないが、第3回本会議における報告事項には含んでいる。

2) 情報提供活動について

事務局より、資料4に基づき、情報提供に係る2009年度活動内容と活動計画(案)について説明がなされ、了承された。

3) 第3期活動の総括について

事務局より、資料5に基づき、第3期活動の総括(案)について説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

**【主な意見】**

(3期7年の総括について)

委員：第3期の総括とともに、3期7年における成果等の総括も必要ではないかと考える。

委員：3期7年の活動紹介とともに、環境会議は一旦終了するが、今後、より発展的な活動を行う旨の説明をしていただきたい。

(資料5について)

副委員長：資料5の3、4項の内容を見ると、実施済、実施中、今後実施する項目が混ざっていて分かりにくい。さらに、取り組んでいる主体も分かりにくいので整理いただきたい。

事務局：ご指摘いただいた事項を踏まえて、修正する。

(課題について)

委員：総括とともに、今後の課題やJILSとして重点的に取り組むべき事項を提示していただきたい。個人的には共同化や標準化などを取り上げてはどうかと考える。

事務局：チェックリスト調査の結果で平均点が低い施策を取り上げることは一案として考えられる。

副委員長：チェックリスト調査等の客観的な結果から課題を挙げた方がよいと考える。

事務局：資料3-1で各委員会の課題も整理している。また、2010年度以降の活動も視野に入れた上で、課題についても取りまとめた。

委員：参考資料2-2の別紙では、グリーン物流研究会で取り上げてほしいテーマ等の意見が紹介されている。これらも参考になるのではないかと個人的に考える。

**【決定事項】**

- ・第3期の総括とともに、3期7年の総括も行う。
- ・総括の中で、今後の課題についても触れる。

4) 第3回本会議について

事務局より、資料6-1、6-2に基づき、第3回本会議の次第(案)について説明がなされた後、議事2)環境教育冊子について、麦田委員よりご説明いただきたい旨の提案がなされ、全会一致で了承された。

5) 2010年度以降の活動について

事務局より、資料7に基づき、2010年度以降の活動(案)について説明がなされ、以下の意見交換がなされ、了承された。

**【主な意見】**

(環境会議の具体的な活動の枠組みについて)

事務局：第3期環境会議で取り組んできたグリーン物流研究会を「グリーンロジスティクス事例研究会」、委員会を「グリーンロジスティクス共同研究」という形で継続実施する予定である。

(ロジスティクス環境委員会(仮称)について)

委員：委員会のメンバー構成はどのようになるのか教えていただきたい。

事務局：会員を代表とした形での委員会のメンバー構成をすることとなる。

(資料7について)

副委員長：広報についても、「会員・広報委員会との連携」という記載が必要ではないか。

事務局：ご指摘いただいたとおりであり、修正したい。

委員長：広報、調査、人材育成については、既存の常設委員会との連携を上手くやっていただきたい。

委員：図表2を見る限り、7つの分科会を作って活動するイメージを受けるが、広報や調査、能力開発等の各委員会がある中で、あらためてこれらの活動をする意味があるのかよく分からない。少なくともCGLメンバー企業に対しては、具体的に何をやるのか説明する必要があると考える。

事務局：これまで約100社のメンバーを対象に実施してきた活動を、これからは会員1,000社を対象に取り組んでいくことにより、CO<sub>2</sub>排出量25%削減などに積極的に寄与していくイメージで考えている。

副委員長：広報、調査、人材育成など“縦串”で見ていたものを、環境をテーマとした“横串”でも検討したいという理解でよいか。

事務局：ご指摘のとおりである。

委員長：図表2が組織図に見えてしまうので、修正いただきたい。

委員：CGLメンバー企業から見た場合の発展的な姿を描いていただいた方が分かり易いと考え

委員：JILSがどのような活動メニューをやろうとしているのかといった視点から整理いただいた方が分かり易いのではないか。

(その他について)

委員：JILS会員における環境テーマのニーズとしてどのようなことがあるのか教えていただきたい。

事務局：下村委員にご尽力いただいているような事例紹介についてのニーズが最も大きい。

## 6) その他

### (1) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料8に基づき、2009年度のスケジュール(案)の説明がなされ、了承がなされた。

## VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以上